

第2節 生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を進める

将来の親となる世代が子どもや家庭について考え、子どもとともに育つ機会を提供するとともに、国民一人ひとりが家庭や子育ての意義について理解を深められるようにするため、教育分野において、次の取組を実施している。

学校教育においては、子どもたちに乳幼児とのふれあいの機会をできるだけ多く提供するとともに、将来親となった際に必要となる子育ての基本的な知識・技能・態度等を習得することが重要である。また、少子化とそれがもたらす社会への影響、子育てや男女が共同して家庭を築くことの大切さなどについても理解を深めることが重要である。

このため、小学校、中学校、高等学校の各学校段階で、関係教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間において相互の連携を図りながら子育てへの理解を深める教育が実施されている。

2004（平成16）年5月には、このような指導を行う際の基本的な考え方や指導体制の先進的な事例を紹介した『子育て理解教育指導資料』を発行した。

また、各都道府県教育委員会や学校の創意工夫により、地域人材の参加・協力や体験活動を生かした実践研究である「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」を実施しており、生命を大切に作る心や思いやりの心、協力し合う態度を育成する道徳教育の一層の推進を図っている。

さらに、2005（平成17）年度より、「豊かな体験活動推進事業」の中で、学校における命の大切さを学ばせるのに有効な体験活動について調査研究を実施し、その成果を全国に普及している。

家庭や地域における取組としては、「夫婦で共同して子育てをする」ことなどについて盛り

込んだ、子育てのヒント集としての家庭教育手帳を作成し、乳幼児及び小・中学生を持つ親に配布している。また、子育て中の父親の役割等について学習する集いの開催など、父親の家庭教育への参加を促進する取組の支援を行うとともに、将来親となる中・高校生を対象とした子育て理解講座を開設しており、若いうちから家庭教育についての理解を深める取組を推進している。

あわせて、独立行政法人国立女性教育会館において、2005年度には各地の子育て支援団体と行政等との連携を図るための「子育てネットワーク研究交流協議会」、2006（平成18）年度には男女共同参画の視点から家庭教育・次世代育成支援に必要な専門的・実践的研修として「家庭教育・次世代育成支援指導者研修」を開催している。また、会館のホームページでは「女性情報ポータル（Winet）」を構築し、育児・子育て支援に関する情報に容易にアクセスできるようシステムの改善を図っている（<http://www.nwec.jp/>）。



乳幼児とのふれあい体験（青森県）